

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2017年12月）**

目 次

**内 政**

- ◆フィツォ首相の2019年大統領選挙不出馬表明 . . . . . 2
- ◆最大与党 Smer の党大会 . . . . . 2

**外 政**

- ◆中根外務副大臣のスロバキア訪問及びパリーゼク副外相との会談 3
- ◆チェコ等に対するEU法違反手続に関するカリニャーク内務相発言 3
- ◆フィツォ首相の欧州理事会出席 . . . . . 4

**経 済**

- ◆スロバキアにおける平均賃金の上昇 . . . . . 4
- ◆国会における2018年予算案の承認 . . . . . 5
- ◆スロバキアの失業率が過去最低を更新 . . . . . 5
- ◆スロバキア中央銀行中期予測（第4四半期） . . . . . 6
- ◆スロバキア中央銀行月報（12月） . . . . . 7

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

## 内 政

### ◆フィツォ首相の２０１９年大統領選挙不出馬表明（９日付各紙）

８日、フィツォ首相は「『フィツォ首相がキスカ大統領を批判するのは、大統領選挙に立候補したいことが理由である』と述べている者がいるが、自分（フィツォ首相）は次期大統領選挙には立候補しない」と述べた。

フィツォ首相は、２０１４年に行われた前回の大統領選挙に出馬したが、キスカ大統領に敗北した。同首相は「２０１４年大統領選挙に立候補したのは政治的な過ちであった。首相を務めながら大統領選挙に立候補するのは不可能であり、有権者は自分が首相職を続けることを望んでいた」と述べた。

２０１９年大統領選挙に、「方向-民主主義（Smer-SD）」から誰が立候補するのは、まだ明らかになっておらず、フィツォ首相は、相応しい候補者を擁立するまで多くの時間が残っていると述べた。現時点での最有力候補者はシェフチョヴィチ・エネルギー連合担当欧州副委員長であり、その他、現在国連総会議長を務めているライチャーク外務・欧州問題相の立候補も噂されている。

（当館注：ライチャーク外務・欧州問題相は、２０１８年１月２４日付プラウダ紙のインタビューの中で、大統領選挙不出馬を表明した。）

### ◆最大与党Smerの党大会（１１日付各紙）

９日、スロバキア中部マルティン市において、最大与党「方向-民主主義（Smer-SD）」の党大会が行われた。

#### 【フィツォ首相演説（Smer党首）】

Smerは１９９３年のスロバキア独立以来、同国で最も成功している政党であり、これまでに４度総選挙で勝利している。１００％の有権者の支持を取り付けることは当然不可能であるが、Smerは今後も社会民主主義に専念していく。

２０１８年１～２月頃には第４の社会パッケージを実施したい。コシツェの工場では１か月のうち１１日間夜勤で働いている者がいるが、１か月に５００ユーロしか稼ぐことができていない。夜勤労働者が何らかの恩恵を受けることができるよう、夜勤手当を引き上げるべきである。スロバキアの失業率は６％台まで下がっており、現在の職がない者のほとんどは長期失業者である。長期失業者のための職業再訓練を実施すると共に、労働力不足問題に対処するため、労働力モビリティを改善していく。

#### 【新党綱領の概要】

- 更なるEU統合を支持すると共に、スロバキアがEU統合の中核に加わることを目指す。
- EU、ユーロ圏及びNATOのメンバーであることがスロバキアにとって死活的に重要。

- 政治的安定を維持するために、引き続き連立政権を形成していく。
- ポピュリズムに対抗するために、一般の人々との直接的なコミュニケーションを推進する。
- 人道、平等、自由、連帯に基盤を置き、スロバキアにおける社会民主主義を追求。

## 外 政

### ◆中根外務副大臣のスロバキア訪問及びパリーゼク副外相との会談（7日）

7日、中根一幸外務副大臣がスロバキアを訪問し、フェレンツ経済副大臣と会談を行った。双方は、日系企業のスロバキア進出に対する投資インセンティブの向上を含む日スロバキア経済関係の強化、日EU・EPAの早期署名・発効による両国間の貿易・投資の活性化、2025年万国博覧会の大阪誘致等について、意見交換を行った。

その後、中根副大臣は、スロバキア日本友好議員連盟のシェベイ会長、クルス議員及びヘゲル議員と会談を行い、日スロバキア関係、北朝鮮情勢等の国際情勢等について、幅広く意見交換を行った。

なお、中根副大臣はスロバキア訪問に先立ち、ウィーンで開催された欧州安全保障協力機構（OSCE）外務理事会に出席中のパリーゼク外務・欧州問題副大臣と会談を行い、日スロバキア関係、北朝鮮情勢、「自由で開かれたインド太平洋戦略」等について意見交換を行うと共に、2020年の日スロバキア交流100周年に向け、幅広い分野で二国間関係を強化していきたい旨述べた。

### ◆チェコ等に対するEU法違反手続に関するカリニャーク内務相発言（7日）

7日、欧州委員会は、移民・難民問題に関する再移転計画に関し、チェコ、ハンガリー及びポーランドに対するEU法違反手続として、欧州司法裁判所に提訴する決定をした。これについて、カリニャーク内務相は「スロバキアは、チェコ、ハンガリー及びポーランドと異なり活動的であり、難民再移転割当て制度とは異なる方法で効果的な取り組みを行ってきた、2016年に行われたブラチスラバにおけるEU非公式首脳会合では、スロバキアは具体的な提案を行い、2015年にはオーストリアに滞在していた難民をガプチャーコヴォの難民施設で一時的に受け入れた」と述べると共に、「本件はV4諸国にとって好ましいものではなく、スロバキアはチェコ、ハンガリー及びポーランドに連帯を示す」と付言した。

カリニャーク内務相は「難民再移転割当て制度が始まった2015年9月と比べて、多くのEU加盟国が同制度に反対するようになった。スロバキアはこれまでの立場を変えることはない。難民再移転割当て制度は、非合法移民の流

入を抑制することができていない。次期ブルガリアのEU議長国期間（2018年上半期）に、別の効果的な取り組みが支持されることを望む」と述べた。

#### ◆フィツォ首相の欧州理事会出席（14～15日）

フィツォ首相は英国のEU離脱交渉に関し「扶養家族に関する権利を含むEU市民に付与されてきたこれまでの居住権が、英国で居住し働いているスロバキア人に対して今後も保証されることが重要である。財政処理に関しては、EU加盟国はBrexitの影響によってEU予算の支払額が増えることはなく、EU予算の受け取り額が少なくなることもなく、また、英国はEU加盟国としての全ての責任を負うという、3つの基本原則が合意された。この3つの基本原則は、EU構造基金を活用したプロジェクトへの拠出に影響する、重要なものである」と述べた。

フィツォ首相は、EU内の防衛協力強化に関する新たな枠組み「常設の構造的な協力（PESCO）」に関し「PESCOの最初のプロジェクトは全部で17あり、その中にはスロバキアによる間接火力支援（当館注：目標が直接見えない状態で攻撃する射撃法）も含まれている。同プロジェクトの主な目的は、自走砲による共通の砲撃プラットフォームを形成することである」と述べた。

## 経 済

#### ◆スロバキアにおける平均賃金の上昇（12日付プラウダ紙）

近年、スロバキアを含む中欧諸国では、これまでになく早いペースで平均賃金が増えている。スロバキアでは月あたりの平均賃金が（前年比で）5%上昇しており、2018年には史上初めて1000ユーロを超える可能性がある。財務省管轄の財政政策研究所（IFP）の予測によると、2017年の平均賃金は948ユーロとなる見込みである。ブラチスラバ及びトルナバの企業は、逼迫した労働市場において労働力を維持するために、平均賃金を10%引き上げている。他方で、東スロバキアでは平均賃金の上昇ペースが緩慢であり、ワイヤーハーネス生産部門の平均賃金は600ユーロに過ぎない。結果として、東スロバキアからブラチスラバへの人口移動が続いており、東スロバキアの企業はウクライナ人やルーマニア人を雇用しようと試みている。

スロバキア政府は、非EU諸国に対して労働市場を開放しないことが平均賃金の上昇に影響を与えたと考えており、引き続き平均賃金を引き上げることで、国内に20万人いる失業者に働くモチベーションを与えるよう企業に要請している。他方で、深刻な労働者不足に直面している企業に対応するために、政府は2018年5月より、失業率が5%以下の郡における外国人労働者の雇用条件を部分的に緩和する予定である。スロバキアに79ある郡のうち、失業率が

5%を切っている郡は33あり、その多くがスロバキア西部及び中部に集中している。現在、スロバキア国内で働いている外国人労働者は約4万人である。

スロバキアでは、2018年も平均賃金が前年比で5%上昇すると予測されている。2018年より最低賃金が435ユーロから480ユーロに引き上げられ、夜勤及び週末手当の引き上げも検討されている。J&T金融グループ(JTFG)のパーニス氏は「ここ数年、平均賃金の上昇率が労働効率性の上昇率を上回る勢いで成長しているのは事実であるが、これは経済危機後の傾向である。より長期的な視野で見ると、平均賃金と労働効率性は同じテンポで成長しており、GDPに占める賃金の割合は変化していない。この観点で言えば、今のところスロバキアの競争力について心配する必要はない」と述べた。

#### ◆国会における2018年予算案の承認（14日付各紙）

13日、スロバキア国会は2018年度予算を承認した。歳入は139億8000万ユーロ、歳出は159億6000万ユーロと見込まれ、財政赤字は2017年のGDP比1.29%（推定）から同0.83%に抑えられることになる。なお、政府は2020年に収支均衡の達成を目指している。政府債務は2017年のGDP比51.1%から同49.9%に削減される。

専門家は、現在好調な経済を財政赤字削減のために十分に活用せず、収支均衡の達成を先延ばしにしているとして、カジミール財務相を批判している。2015年の時点では、2018年に収支均衡が達成される予定であった。経済・社会改革研究所(INEKO)のゴリアシュ所長は「景気が良い今のうちに財政赤字及び政府債務を削減しなければ、いずれ起こりうる経済危機の際にしゃべり返しを受けることになる」と述べた。

#### ◆スロバキアの失業率が過去最低を更新（20日付TASR通信）

20日、ヴァレントヴィチ労働局局長は、リフテル労働・社会問題・家族相同席の下、スロバキアの失業率に関する記者会見を行った。ヴァレントヴィチ局長は「2017年11月のスロバキアの失業率（登録ベース）は5.59%で、前月比0.19%、前年同期比2.83%それぞれ低下した。総求職者数は11月時点で196,055人となり、前月比4,217人、前年同期比82,137人それぞれ減少した。県別に見ると、8県全てで失業率の低下を記録し、特に Banska Bystrica 県で最も顕著な低下が見られた」と述べた。

リフテル労働相は「我々は、スロバキアの25年の歴史の中で類を見ないほど好調な数字を記録している。失業率が6%を下回り、総求職者数が20万人を下回ったのは史上初めてである」と述べた。

## ◆スロバキア中央銀行中期予測（第4四半期）

### 1 GDP

第3四半期のユーロ圏経済成長は前期比0.6%増となった。家庭消費、総固定投資及び在庫変動が成長の牽引役となった。輸出の伸びは輸入の伸びを若干上回る程度で、経済成長に対する純輸出の影響はわずかだった。

第3四半期のスロバキア経済は、前期比0.8%増となった。予想以上の伸びを見せた固定投資と好調な個人消費が、第3四半期の経済成長の主な要因となった。個人消費は労働市場の改善と消費マインドの向上に下支えされ、経済危機後では最も高い水準となった。

### 2 労働市場

好ましい雇用見通しと求人率の上昇によって、労働市場の改善傾向は今後数年間維持されるものと見られる。他方、労働市場の逼迫の影響により雇用の伸びは落ち着きを見せ、2017年の2.7%から2020年の1.1%へと徐々に減速する見込みである。

失業率（全求職者数から算出された数値）は下落を続け、2017年の8%前後から、2020年には約6%に下落すると見込まれている。この見通しは、多数の長期失業者の就労が主な要因と見られる。

名目賃金の成長率は、2017年：4.4%、2018年：5.1%、2019年及び2020年：5.3%と予測されている。

### 3 物価

2018年の物価上昇率は、加工食品価格の急激な上昇と2018年に実施予定のエネルギーの規制価格の上昇により、6年ぶりの高水準となる2.4%となると予測される。中期的には、食料品とエネルギー価格のインフレ効果が一時的に緩和される間も、需要圧力が高まると見られる。そのため、物価上昇率は2019年に2%、2020年に2.3%になると見込まれる。

### 4 外部環境及び外需

世界的な経済回復と信頼感指数の改善に下支えされて、スロバキアの2017年の外需の伸びは、6年ぶりの高水準となる6%との予測となった。中期的には、2018年にスロバキアの4つの主要自動車工場が稼働することにより、外需がスロバキアの輸出を活性化すると予測されている。

世界経済とユーロ圏各国における好ましい傾向の持続も反映され、2018年の外需の伸びは4.9%に、2019年は4.3%、2020年は4.1%となる見通し。

## ◆スロバキア中央銀行月報（12月）

### 1 GDP

第4四半期のユーロ圏の経済成長は比較的堅調な見通し。この予測は、鉱工業生産に関する月次データ及びその他予測指標に基づいている。

スロバキアの実体経済活動に関する10月の主要な指標は改善している。鉱工業生産は3ヶ月前比で上向き、売上と輸出の伸びが加速した。好調な経済活動に一貫する主な要因は自動車産業及び石油化学産業の好転であった。

### 2 労働市場

10月の雇用率は前年同期比3.1%増加した。3ヶ月移動平均での雇用率の増加は0.6%だった。雇用の伸びは、鉱工業の安定的な成長に引き続き下支えされている。サービス業の雇用率の伸びは緩やかに加速しているが、他方で商業はほぼ横ばいだった。

10月の前年同期比での平均賃金の伸びは4%で、第3四半期と比べ0.4%下落した。賃金が5.6%上昇した建設業を除き、ほとんどの業種が減速の要因となった。鉱工業の賃金上昇の伸びは4.2%と比較的高かったが、第3四半期の業種別平均賃金と比較すると、主要部門内で最も大幅な下落が見られた。10月の平均賃金は910ユーロであった。

### 3 物価

11月の消費者物価指数は前年同期比で2.1%上昇した。食料品価格、エネルギーを除く鉱工業製品価格の上昇がこれを下支えた。主に前月から50%上昇した鶏卵価格と、牛乳及び乳製品価格において供給ショックが明確に見られる。アルコール及びたばこを除く加工食品の価格は年間で6.6%上昇した。2018年1月のエネルギー価格は、電気、ガス及び暖房の小売価格が上昇するとの予測により、マイナス域への落ち込みから5年ぶりにプラスに転じると予想されている。

現在の傾向を踏まえると、消費者物価指数は2017年に1.4%となり、2018年は2%を超えると予想されている。

### 4 貿易

10月の商品輸出は前年同期比で5.7%、輸入は9.8%それぞれ増加した。貿易黒字は8800万ユーロであった。

# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

